**東　準 （あずま・じゅん）**

**１、プロフィール**

小説家。小学校教員の傍ら小説の筆をとる。古典取材の作品から発想を転換、郷土史に素材をえた歴史小説を精力的に発表。博捜された史料の上に重厚な作品を構築した。

＜生没＞

1920（大正９）年６月20日 ～ 1994（平成６）年５月10日

＜代表作＞

 　歴史小説『西浜隊顛末記』『津軽戦国志　卍軍記』『岩木川』（５部作）

随筆『岩木川』

＜青森との関わり＞

五所川原市生まれ。郷土史に取材した歴史小説、随筆を執筆出版。

**２、作家解説**

小説家。大正９年（1920）五所川原市生まれ。本名外崎繁美。県立木造中学校、青森師範学校二部卒業。中学時代、日本・世界文学及び日本史に興味をもち耽読。師範時代には日本の古典文学を読みあさる。卒業後、小学教師となる。授業の傍ら生徒に“昔コ”を語り、昔コ先生と呼ばれた。後年の創作に大いに役立つ。２回召集され、戦後また教職に就く。下山俊三選の東奥日報「10枚小説」に応募、大伴家持が主人公の「泉」が入選する。石坂洋次郎選の「東奥小説賞」第５回（昭和39年）に「西浜隊顛末記」が入選。津軽戦国期の底辺を素材にしたもので、中央素材中心の創作姿勢の転換がみられる。「津軽太平記」（「青森民友」昭41年１月１日～12月30日）、「望郷春秋記」（「月刊あおもり」昭和44年６月創刊号～昭和46年７月号）をそれぞれ連載する。昭和38年（1963）同人雑誌「西浜」（西北五文学を語る会）を木山きよし、有村智賀志らと創刊。昭和54年（1979）16号を発行。「神童」（創刊号）等、精力的に作品を発表する。北彰介を知り、児童文学にも筆を染める。東奥日報「みちのく郷土史」（昭和50年５月～７月）に10回執筆。また同社の「新・風土記あおもり」（昭和56年）の連載に、県下の地蔵様のいわれを追っての物語を執筆した。昭和56（1981）年青森県芸術文化奨励賞を受賞。『津軽戦国志　卍軍記』（昭和50年　津軽書房）を書下ろし出版。津軽為信の生涯を描いた560枚の力作である。そして、安東一族の盛衰記『岩木川』（５部作　昭和53年～昭和59年）を出版。準備期間を加えると10年の歳月をかけた労作である。この作品に関わっての随筆集『岩木川』（昭和60年　津軽書房）を出版、大作「岩木川」の総仕上げとする。

**３、資料紹介**

〇『津軽戦国志　卍軍記』

図書

1975（昭和50年）５月30日

190mm×135mm

津軽書房発行の書き下ろし長編歴史小説。全六章から成る。津軽統一を成し遂げた為信波乱の生涯を描く。史実を追いながら、為信に影のように付き添う伊賀の乱波小平太や“扇”と呼ばれた頃の為信と村娘“千里”の恋物語等を絡めて作品世界は展開する。